



楽天株式会社

第12期 株主通信

2008年1月1日～2008年12月31日

不況にも強い、 楽天。

経営体質を強化し、
厳しい経済情勢の中でも
「成長し続ける企業」を
目指します。

代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

三木谷浩史



トップメッセージ

株主・投資家の皆様には平素より格別のご支援ならびにご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

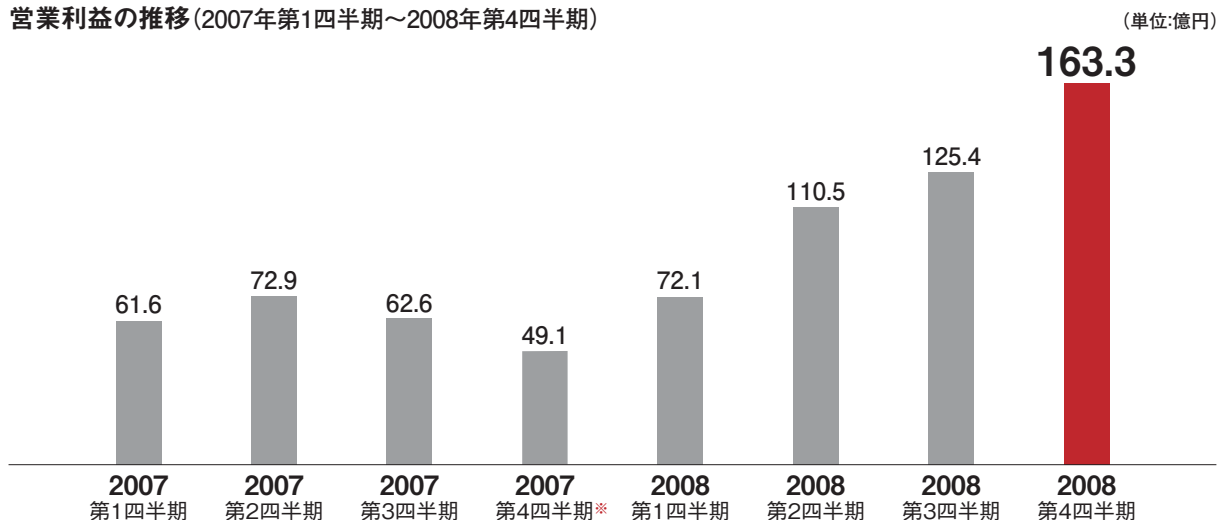
2008年は世界的な金融危機に見舞われましたが、楽天グループは、消費者の低価格志向やEC(電子商取引)利用人口の拡大を背景に、高成長を維持することができました。お陰様で、売上高は前期比16.8%の増加の2,498.8億円となりました。また、楽天KCの損益改善及び経営管理施策「プロジェクトV」のもと徹底的なコスト管理に取り組んだことにより、営業利益率も大幅に改善し、営業利益は471.5億円となりました。一方で、投資有価証券評価損等により、

当期純損失は549.7億円となりました。

今後も景気低迷が続くと予想されますが、厳しい経済情勢の中でも成長し続ける企業となるため、2009年は経営体質の強化を目標に掲げています。引き続き経営管理施策の徹底を図り、さらには人材の戦略的配置、事業の選択と集中をしてまいります。加えて、インターネットと周辺技術の進化に対応し、サービスの向上を図るため、研究開発にも積極的に取り組んでいきます。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

営業利益の推移(2007年第1四半期～2008年第4四半期)



※ 2007年第4四半期は楽天KCにおける利息返済請求に伴う損失引当金の見積り精微化で発生した一時費用(245.2億円)を足し戻した金額

「楽天経済圏」の拡大

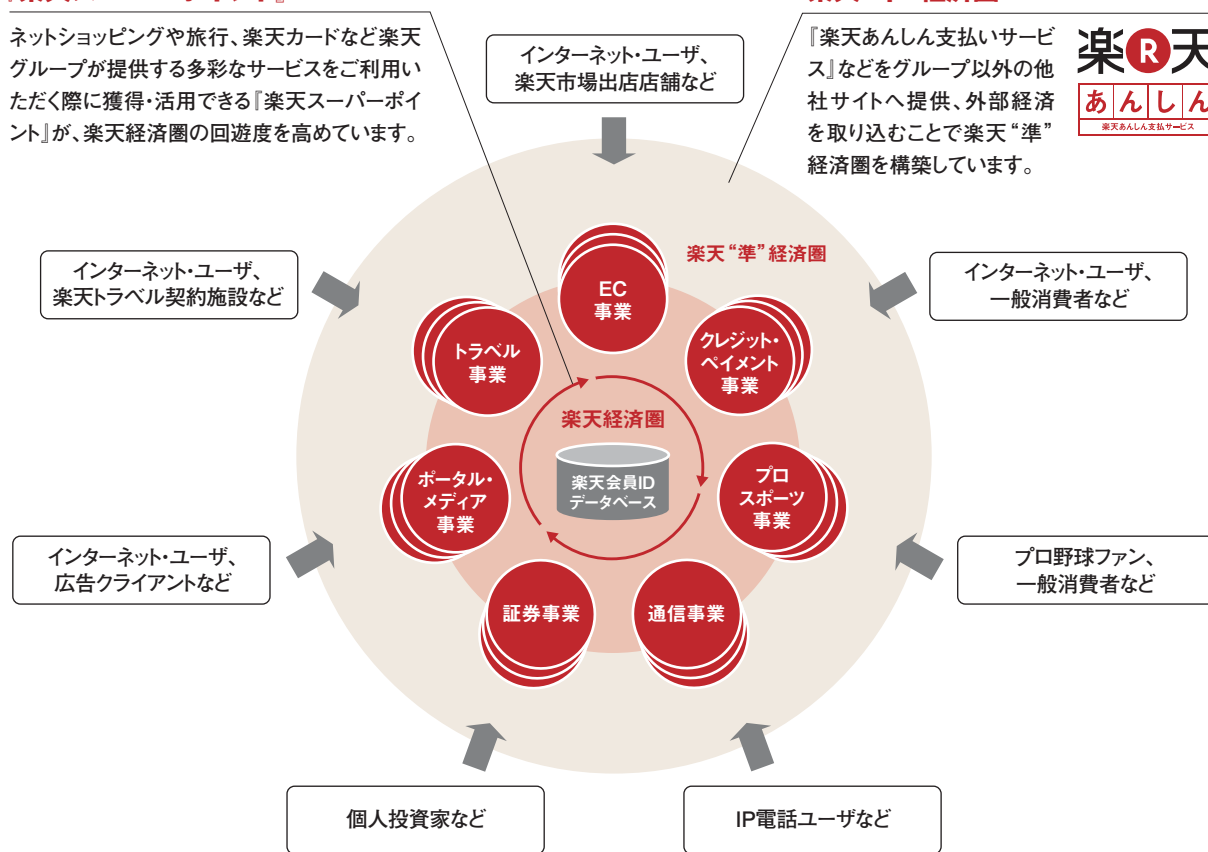
厳しい経済環境の中、楽天グループは
「良い商品をより安く、より便利に買いたい」という
消費者のニーズに応えた施策を打ち出し成長を続けています。

使って貯まる! 貯めて使える! 『楽天スーパーポイント』

ネットショッピングや旅行、楽天カードなど楽天グループが提供する多彩なサービスをご利用いただく際に獲得・活用できる『楽天スーパーポイント』が、楽天経済圏の回遊度を高めています。

楽天会員IDが利用できる! 楽天“準”経済圏

『楽天あんしん支払いサービス』などをグループ以外の他社サイトへ提供、外部経済を取り込むことで楽天“準”経済圏を構築しています。



POINT

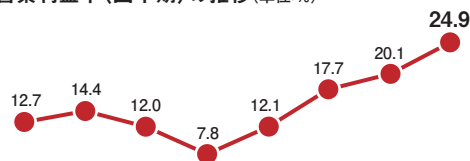
1

営業
利益率 **17.1** ポイントUP!

企業体質の強化を図り生産性・収益性向上

クレジット・ペイメント事業での大幅な損益改善に加え、経営管理体制の強化施策「プロジェクトV」を通じグループ全体でコスト削減に取り組んだ結果、2008年第4四半期の営業利益率は24.9%となり、前年同期比17.1ポイント上昇しました。

営業利益率(四半期)の推移(単位:%)



2007 第1 四半期	2007 第2 四半期	2007 第3 四半期	2007 第4 四半期*	2008 第1 四半期	2008 第2 四半期	2008 第3 四半期	2008 第4 四半期
-------------------	-------------------	-------------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

※ 2007年第4四半期は楽天KICにおける利息返還請求に伴う損失引当金の見積り精緻化で発生した一時費用(245.2億円)を足し戻した金額

POINT

2

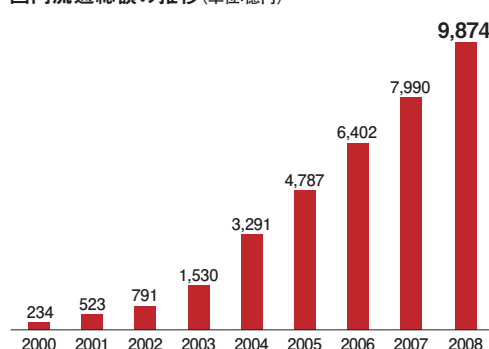
国内流通総額
9,874 億円!

大手百貨店並みの規模に

楽天グループが運営するWebサイト内での流通総額※は国内だけでも、9,874億円となり、大手百貨店並みの規模となりました。経済が減速する中、安くて良い商品を購入できるインターネット・ショッピングが高く評価されました。

※ 取引高総額のこと

国内流通総額の推移(単位:億円)



POINT

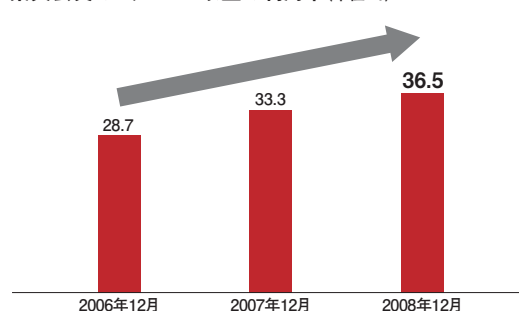
3

クロス
ユース **36.5**%

楽天スーパーポイントなどが奏功

魅力的なサービスの提供に加え、『楽天スーパーポイント』や各種サービスの併用を促すポイントキャンペーンが効果を上げ、グループの複数サービスを利用するクロスユースが進んでいます。

楽天会員の2サービス以上の利用率(単位:%)



社会貢献活動

楽天グループでは、「ちょっといいこと」を続けることで一人でも多くの方を笑顔にしたいと考え、2007年の創立10周年を機に社員からさまざまなアイデアを募集し、「楽天IT学校」「エコ梱包・リサイクル」「エコ活動の推進」などの社会貢献活動に取り組んでいます。

インターネットモラル講座を開催



楽天グループでは、「インターネットの持つ“パワーと可能性”を、次世代を担う子供たちへ伝えたい!」との願いから、高校の先生や生徒などを対象にインターネットについて理解を深めてもらうための講座「楽天IT学校」を各地で開催しています。

2008年8月は、「インターネットモラルについての授業をしたいが、どうしていいかわからない」という高校の先生の言葉がきっかけで、宮城県で講座を開きました。この講座では2日間で約150人の先生が受講しました。生徒たちが書き込んでいるコミュニティサイトの掲示板に実際にアクセスするなどして、生徒を取り巻くネットの世界を体験してもらいました。先生方からは「生徒が何をしているのか初めて知った」などの声が上がっていました。このほか京都府などで、高校生を対象にネットショップの制作や運営についての講座を開き、店舗様のご協力のもと、販売体験もしていただきました。



楽天IT学校授業風景

エコ梱包材の開発



楽天(株)が運営する「楽天ボックス」では、本やDVD、CDなどを梱包するダンボール材料の使用量を従来に比べて削減したエコ梱包材を開発しました。

担当スタッフが「楽天ボックス」の物流センターへ行き、商品の梱包から発送までの流れとともに梱包材の耐久性を考慮したうえで、コストを抑えシンプルなデザインに仕上げました。

また、内側に気泡シート(気泡緩衝材)が貼り付けてあるクッション封筒も、これまでのものよりもインクや紙の使用量を減らしました。同時にこのクッション封筒は、捨てる際の分別が不要でお



エコ梱包材

客様の負担も軽減することができました。

今後も、楽天グループで使用している梱包材料の見直しを進めるとともに、梱包材を回収しリユースする仕組みづくりなどにも取り組む予定です。

植林事業への寄付や

カーボン・オフセットを企画



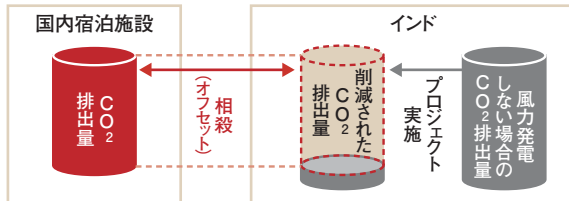
楽天グループでは、「身近なことからこつこつと!」をモットーに環境負荷低減や自然保護に取り組んでいます。

「楽天市場」で、2008年12月17日午前零時から27時間実施したお買い物マラソンでは、お客様が1回注文するたびに楽天(株)がフィリピンのミンドロ島の植林事業に3円を寄付しました。寄付額は計15万円に達しました。

また、楽天トラベル(株)では、国内の宿泊施設利用に伴い発生するCO₂(二酸化炭素)排出量をオフセット(相殺)する『エコ楽天トラベル』を2008年11月19日から12月末まで実施しました。期間中、各利用者が計457泊したことで発生した計15,538tCO₂e※を、インドにおける風力発電プロジェクトで排出削減したCO₂量でオフセットしました。

※ CO₂e:温室効果ガスをCO₂に換算した値

『エコ楽天トラベル』で利用するオフセットの方法



Webサイトで社会貢献活動の詳細を紹介しています
<http://ecoto.rakuten.co.jp/>

業績概要

2008年度は、「楽天市場」「楽天ブックス」での流通総額が前期比23.6%増と国内EC市場全体の成長率を大きく上回りました。また、オンライン旅行予約サイト「楽天トラベル」での予約流通総額も前期比18.4%増と高い成長を維持し、営業利益及び経常利益いずれも過去最高を記録いたしました。

2008年秋以降、米国の金融危機を発端に景気が急速に悪化しました。このため、消費者の節約志向が顕著となり外出を控え家で過ごす「巣ごもり消費」の傾向が高まったことや価格が比較しやすく時間とお金を節約できるインターネット・ショッピングが購売手段の一つとして一層定着したことから、2008年度のEC（不動産や車などを除く物販）市場は前期比14.4%増の約2兆5,000億円に達する見通しです。

こうした中、「楽天市場」「楽天ブックス」の2008年度流通総額は国内EC市場全体の成長率を上回り前期比23.6%増加、「楽天トラベル」の予約流通総額も前期比18.4%増加しました。

当期における連結業績については、売上高は249,883百万円（前期比16.8%増）となりました。また、クレジット・ペイメント事業で利息返還損失引当金繰入額と貸倒関連費用が減少したことで損益が大幅に改善するとともに、経営管理施策「プロジェクト V」を通じてコスト構造を見直したことが功を奏し、営業利益は47,151

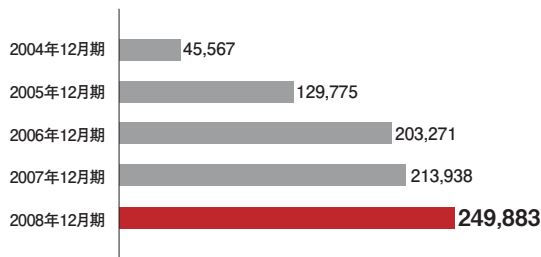
百万円（前期は118百万円の営業利益）、経常利益は44,531百万円（前期は2,376百万円の経常利益）といずれも過去最高を更新しました。

一方、当期は投資有価証券評価損や減損損失などの特別損失80,911百万円が発生し、さらに減損損失などの有税処理に伴い法人税等及び法人税等調整額を計上したことなどから当期純損失は54,977百万円（前期は36,898百万円の当期純利益）となりました。

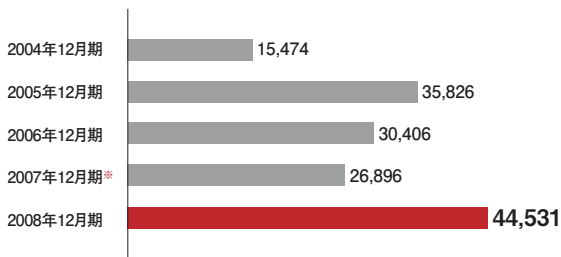
株主還元については、単年度の実績に左右されない安定した配当を続けるとの基本方針に従い、前期と同額の1株当たり100円の配当を実施いたします。

今後も楽天グループは、サービスの向上やコスト削減、新たな収益源の確保に努め、株主価値・企業価値の一層の増大を図ってまいります。

連結売上高（単位：百万円）



連結経常利益（単位：百万円）



※ 2007年12月期は楽天KCにおける利息返還請求に伴う損失引当金の見積り精緻化で発生した一時費用（245.2億円）を足し戻した金額

EC事業

ビジネスユニット：楽天市場事業 オークション事業 メディアレンタル事業 パッケージメディア事業
ゴルフ事業 オート事業 デリバリー事業 ダイニング事業 ダウンロード事業 チケット事業
ビジネスサービス事業 パフォーマンスマーケティング事業 競馬モール事業 物流事業
チェックアウト事業 ネットスーパー事業 国際市場事業



当期の主なトピックス

「楽天市場」売上・営業利益とも過去最高を記録

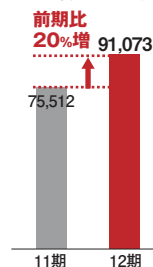
当期の「楽天市場」及び「楽天ブックス」の流通総額は、6,638億円に到達し、前期比23.6%増と好調に推移しました。この結果、楽天市場事業の売上高は63,037百万円（前期比22.8%増）、営業利益は30,802百万円（前期比33.1%増）となり、過去最高の業績を記録しました。

セグメント別売上高

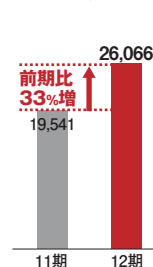
91,073百万円



売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）



翌日配送サービス『あす楽』でより便利に

「楽天市場」の『あす楽』は、商品を正午までに注文すると翌日に配達されるサービスです。生鮮食品や日用品など10万点を超える商品が全国規模で翌日配送されるサービスは、インターネット通販業界で初めてとなります。



あす楽

ネットで注文、翌日配送

ニッポンを元気にしよう！プロジェクト『まち楽』を開設

『まち楽』は、47都道府県の“まち”単位にスポットを当て、各エリアの特産品を中心としたさまざまな魅力を紹介する地域密着情報発信サイトです。地方自治体と連携したコンテンツを作成するなど地域色に富んだ企画を充実させ、全国各地の地域情報の発信源としてサービスを拡充していきます。



VOICE 楽天市場ユーザー 30代兼業主婦の方より

買い物のほとんどが「楽天市場」

平日の昼間、働いている私にとって、自宅ではパソコンから、外出先では携帯電話から24時間いつでもお買い物ができる「楽天市場」はとても頼もしい存在。時間を有意義に使える便利さに加え、お店でも見つからないような商品があって、品揃えが豊富な点も大きな魅力です。また、店舗での販売価格と「楽天市場」での価格を比べて賢く買い物できるので、欲しい商品は、まず「楽天市場」で価格を調べてから買うかどうか決めています。



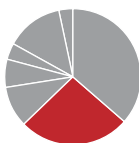
クレジット・ペイメント事業

ビジネスユニット：KC事業
パーソナルファイナンス事業
バンキング事業(東京都民銀行との提携)

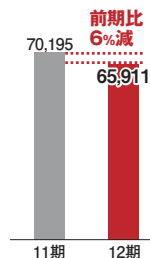


セグメント別売上高

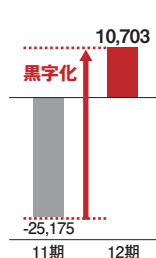
65,911百万円



売上高(単位:百万円)



営業損益(単位:百万円)



当期の主なトピックス

ポイント制で『楽天カード』の利用が拡大

楽天KC(株)のクレジットカード『楽天カード』は、「楽天市場」で商品を購入するとポイントが2倍、一般の店舗での利用でもポイントが付きます。このポイントプログラムが好評でユーザの利用が拡大したことに加えて利息返還関連費用等が減少したことにより、営業損益が著しく改善しました。

イーバンク銀行と提携し個人向けローンを提供

楽天(株)は2008年9月、ネット専業銀行口座数国内No.1のイーバンク銀行(株)と資本・業務提携し、同行の優先株式199.8億円の引受とともに、楽天クレジット(株)と同行を統合することで合意しました。同行は楽天クレジット(株)が持つノウハウなどを活用し個人向けローン事業を開始します。同行の便利な決済サービスが、楽天のサービスで利用可能となります。

証券事業

ビジネスユニット：証券事業 投資事業
モーゲージ事業 保険事業

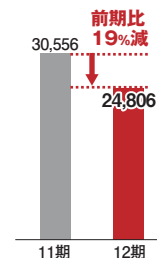


セグメント別売上高

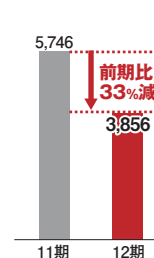
24,806百万円



売上高(単位:百万円)



営業利益(単位:百万円)



当期の主なトピックス

国内ネット証券で投資信託取扱No.1

楽天証券(株)の投資信託取扱本数は、販売手数料無料のノーロード投資信託141本を含む409本と国内のネット証券でNo.1となりました。海外ETF※についても、米国64銘柄、中国19銘柄を取り扱うまでになりました。

※ Exchange-Traded Fundの略で、証券取引所で取引される投資信託のこと。

『楽天FX』の口座数、取引数ともに増加

2008年6月に開始した外国為替証拠金取引『楽天FX』は、取引手数料0円、レバレッジ(投資効率)最大100倍、スプレッド2.0銭※と、国内ネット証券で最高水準のサービスを提供しており、口座数、取引数ともに順調に増加しています。

※ スプレッドは買値と売値の差。平常時に米ドルと円を売買した場合の買値と売値の差が2.0銭という意味。

トラベル事業

ビジネスユニット：トラベル事業



当期の主なトピックス

売上高、営業利益、流通総額ともに過去最高を記録

当期のトラベル事業における予約流通総額は2,604億円、前期比18.4%増となりました。この結果、売上高は16,198百万円（前期比25.5%増）、営業利益は7,462百万円（前期比24.3%増）となり、過去最高の業績となりました。

便利でお得な旅を提供『びゅう楽トク仙台』

「楽天トラベル」は、JR東日本と共同で、宮城県仙台市で開催される東北楽天ゴールデンイーグルスの観戦チケットと仙台までの往復新幹線切符、宿泊券、食事券をパッケージした『びゅう楽トク仙台』を企画し、面倒な手続きなく野球観戦を楽しんでいただけるツアーを提供しました。

『ANA楽パック』でレンタカーも予約可能に

航空券と宿泊の予約が一度にできる『ANA楽パック』で、レンタカーの検索と予約も可能になりました。航空券と宿泊に加え、レンタカーまでダイナミックパッケージ※として予約できるのは国内初。旅の予約が、さらに便利にそして簡単になりました。



※ パッケージツアーをインターネットで予約、購入できるサービス

セグメント別売上高

16,198百万円



売上高(単位:百万円)

前期比
25%増

16,198

12,909

11期 12期

営業利益(単位:百万円)

前期比
24%増

7,462

6,004

11期 12期

VOICE 楽天トラベル施設様より

やれば必ず成果が出る「楽天トラベル」

個人のお客様にホテルの個性を強くアピールするには、機能が充実した「楽天トラベル」は最適なフィールドです。魅力的プランを企画したり、プランをスタッフに周知徹底するのが大変だったり苦労はありますが、確実に売上に繋がっていると感じています。

「楽天トラベル」のITC※の皆さんは私たちと同じ目線でWebサイトを活性化する方法を考えてくださる、それが嬉しいですね。

※ インターネットトラベルコンサルタント。情報やノウハウの提供、Webサイト制作の支援などを通じて、宿泊施設の集客力向上をサポートする



栗津温泉 旅亭懐石 のとや 社長 桂木 実 様

ポータル・メディア事業

ビジネスユニット：

インフォシーク事業 広告事業

リサーチ事業 人材事業

ブログ事業 マリッジ事業

みんなの就職活動日記

楽R天 Infoseek

楽R天 BLOG

楽R天 リサーチ

セグメント別売上高

9,680百万円



売上高(単位:百万円)

前期比 28%増

9,680

7,510

11期 12期

営業損益(単位:百万円)

前期比 43%改善

-205

-362

11期 12期

通信事業

ビジネスユニット：電話事業

FUSION COMMUNICATIONS

セグメント別売上高

34,249百万円



売上高(単位:百万円)

前期比 253%増

34,249

9,700

11期 12期

営業損益(単位:百万円)

黒字化

434

-394

11期 12期

当期の主なトピックス

新事業、新サービスを開始

楽天(株)は、「O-net」ブランドで知られ28年の歴史を誇る結婚サービス最大手(株)オーネットを連結子会社とし、結婚サービス事業の提供を開始しました。また、インターネット上でフォトブックやネットプリントの発注ができるフォトECサイト『楽天写真館』を開設しました。

O-net
楽R天

楽R天
写真館

「インフォシーク」トップページを大幅リニューアル

インフォシーク事業では、デザインの一新のみならず、利用したいコンテンツだけを表示させる「編集モード機能」、利用頻度の高いサービスのアイコンを自動表示する「よく利用するサービス一覧」など、使い勝手を向上する機能を拡充しました。

当期の主なトピックス

不採算サービスの廃止やコスト削減で黒字化達成

フュージョン・コミュニケーションズ(株)では、不採算サービスの廃止や販売促進インセンティブの適正化、さらにアクセスチャージ(接続料金)やリース料などにかかるコストを削減することによって収益性が大幅に改善しました。

会員の『楽天ブロードバンド』加入を推進

フュージョン・コミュニケーションズ(株)の子会社フュージョン・ネットワークサービス(株)は2008年3月、個人向けインターネット接続サービス『楽天ブロードバンド』を開始しました。「楽天市場」などの利用者にポイントが通常の10倍付与される「ポイント10倍キャンペーン」など各種プロモーションを積極的に展開し、引き続き楽天グループ会員の加入者拡大を図っています。

プロスポーツ事業

ビジネスユニット：プロスポーツ事業



当期の主なトピックス

選手の活躍で観客動員数が増加

2008年、「東北楽天ゴールデンイーグルス」は、チーム一丸となり激闘を繰り上げましたが5位に終わりました。しかしパ・リーグ最優秀選手賞を獲得した岩隈久志投手、首位打者に輝いたリック・ショート選手の活躍などにより、観客動員数は過去最高を記録しました。

楽天イーグルス、好きな野球チーム4位に躍進

社団法人中央調査社の無作為抽出による調査(2008年6月)によると、楽天イーグルスは「好きな野球チーム」の4位(6.7%が好きと回答)に躍進、全国規模でファンが増えていることが裏付けられました。2007年調査に比べ、4.2%も増加しました。野村監督、田中投手が頻繁にメディアで取り上げられたことが、増加の主な要因と考えられます。

ファンクラブ会員、過去最高を記録

楽天イーグルスのファンクラブ会員は、2008シーズンで「38,725人」となり、2005年の初年度「38,200人」を上回る、過去最高を記録しました。2007シーズンにチーム4位となったことで、シーズン当初から、ファンの期待が非常に高かったことに加え、キッズ向けのファンクラブ特典にグローブを導入し、これが爆発的なヒットとなったことなどが要因です。

セグメント別売上高

7,963百万円



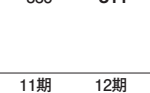
売上高 (単位:百万円)

前期比
5%増
7,553



営業損益 (単位:百万円)

前期比
2%改善
-836



VOICE 東北楽天ゴールデンイーグルスファンより

- 野球に詳しくなかったのですが、女性の野球教室に参加してから、ハマりました。久米島キャンプまで見に行くほど、イーグルスが好きです。(30代女性)
- 選手がだんだんと成長してきた。楽しい選手も多い。来年、たぶんクライマックスシリーズにいけるよ。とても楽しみです。(50代男性)
- パパ、クラッチ(マスコットキャラクター)が幼稚園に来たの。(4歳男児)
- 子供はジュニアスクールに通っています。家族みんなで楽天ファンです。(30代女性)



勝利を願う観客

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末 (2007年12月31日現在)	当期末 (2008年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	903,200	850,267
固定資産	255,722	236,670
有形固定資産	24,027	21,114
無形固定資産	93,410	93,313
投資その他の資産	138,284	122,242
資産合計	1,158,923	1,086,937
負債の部		
流動負債	750,441	702,855
固定負債	210,737	222,137
特別法上の準備金	3,920	3,217
負債合計	965,099	928,210
純資産の部		
株主資本	206,804	150,680
資本金	107,453	107,534
資本剰余金	119,484	119,565
利益剰余金	△20,122	△76,408
自己株式	△10	△11
評価・換算差額等	△20,968	△977
その他有価証券評価差額金	△21,076	655
繰延ヘッジ損益	26	△335
為替換算調整勘定	81	△1,297
新株予約権	127	243
少数株主持分	7,859	8,781
純資産合計	193,823	158,727
負債純資産合計	1,158,923	1,086,937

証券業における信用取引資産が107,549百万円減少した一方で、現預金が31,150百万円増加したことにより、前期末比71,985百万円減の1,086,937百万円となりました。

証券業における信用取引負債が48,149百万円減少したことにより、前期末比36,889百万円減の928,210百万円となりました。

投資有価証券評価損の認識によりその他投資有価証券評価差額金が21,732百万円増加した一方、投資有価証券評価損等の特別損失を計上したことで当期純損失となり利益剰余金が56,285百万円減少したことから、前期末比35,096百万円減少の158,727百万円となりました。

※ 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております

連結株主資本等変動計算書

科目	(2008年1月1日から2008年12月31日まで)					(単位:百万円)						
	株主資本					評価・換算差額等				新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株主	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
前期末残高	107,453	119,484	△20,122	△10	206,804	△21,076	26	81	△20,968	127	7,859	193,823
当期変動額												
新株の発行	81	81			162							162
剰余金の配当			△1,307		△1,307							△1,307
当期純損失			△54,977		△54,977							△54,977
連結範囲の変動による増減			△0		△0							△0
自己株式の取得				△0	△0							△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						21,732	△362	△1,379	19,991	115	921	21,027
連結会計年度中の変動額合計	81	81	△56,285	△0	△56,123	21,732	△362	△1,379	19,991	115	921	△35,096
当期末残高	107,534	119,565	△76,408	△11	150,680	655	△335	△1,297	△977	243	8,781	158,727

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (2007年1月1日から 2007年12月31日まで)	当期 (2008年1月1日から 2008年12月31日まで)
売上高	213,938	249,883
売上原価	39,480	55,346
売上総利益	174,457	194,536
販売費及び一般管理費	174,338	147,385
営業利益	118	47,151
営業外収益	5,056	1,654
営業外費用	2,798	4,274
経常利益	2,376	44,531
特別利益	57,440	1,390
特別損失	9,144	80,911
税金等調整前当期純利益又は損失(△)	50,672	△34,989
法人税、住民税及び事業税	20,941	15,695
法人税等調整額	△5,970	4,911
少数株主損失	1,197	617
当期純利益又は損失(△)	36,898	△54,977

※ 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております

平成19年12月期第3四半期連結会計期間末から連結を開始したフュージョン・コミュニケーションズ(株)が、当連結会計年度においては期首からの連結となった影響とともに、EC事業及びトラベル事業が好調だったことから、売上高は249,883百万円となりました。

EC事業及びトラベル事業の増収効果、クレジット・ペイメント事業における利息返還損失引当金繰入額及び貸倒関連費用の減少による大幅な損益改善、及び経営管理施策「プロジェクト V」を通じたグループ横断的な費用構造見直しの成果等により、営業利益は47,151百万円、経常利益は44,531百万円と大きく改善し、いずれも過去最高を更新しました。

税金等調整前当期純損失については、投資有価証券評価損や減損損失等の特別損失80,911百万円が当連結会計年度に発生したことから、関係会社株式売却益等の特別利益57,440百万円を計上した前連結会計年度に比べ大きく減少し、税金等調整前当期純損失は34,989百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (2007年1月1日から 2007年12月31日まで)	当期 (2008年1月1日から 2008年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	42,966	△13,466
投資活動によるキャッシュ・フロー	55,069	△40,976
財務活動によるキャッシュ・フロー	△113,627	62,397
現金及び現金同等物に係る換算差額	233	△865
現金及び現金同等物の増減額	△15,358	7,088
現金及び現金同等物の期首残高	89,219	73,860
連結範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増加額	—	342
連結除外に伴う 現金及び現金同等物の減少額	—	△7
現金及び現金同等物の期末残高	73,860	81,283

※ 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております

クレジット・ペイメント事業における流動化債権の償還に伴い、資産流動化受益債権が減少する一方で割賦売掛金及び営業貸付金が増加したことに加えて、主に前連結会計年度に関する法人税等の支払23,452百万円があったこと等により、13,466百万円の資金流出となりました。

イーバンク銀行(株)の優先株式取得やソフトウェア等の無形固定資産に投資したこと等により40,976百万円の資金流出となりました。

金融市場の状況を鑑み、手元流動性を厚くする等の対応を行ったことにより、62,397百万円の資金流入となりました。

グループ概要

会社概要 (2008年12月31日現在)

会社名	楽天株式会社
設立	1997年2月7日
楽天市場開設	1997年5月1日
株式店頭登録	2000年4月19日
資本金	107,534百万円
本社	東京都品川区東品川4-12-3 品川シーサイド楽天タワー
従業員数	4,874名(連結)

役員 (2008年12月31日現在)

代表取締役	三木谷 浩史
会長兼社長	

取締役副社長	國重 惇史
取締役常務執行役員	小林 正忠 島田 亨 杉原 章郎 鈴木 尚 高山 健 武田 和徳 利重 孝夫 安武 弘晃

取締役執行役員	大西 芳明
---------	-------

取締役	草野 耕一 吹野 博志 依田 巽
-----	---------------------

監査役	畑 皓二 増見 勝一郎 平田 竹男 山口 勝之
-----	----------------------------

関連会社 (2008年12月31日現在)

連結子会社	46社
特分法適用会社	10社

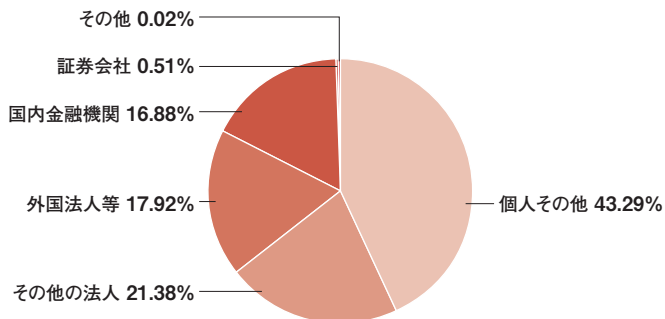
株主の状況 (2008年12月31日現在)

発行可能株式総数	39,418,000株
発行済株式の総数	13,087,063株
株主数	107,760名

大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社クリムゾングループ	2,264,190	17.30
三木谷 浩史	2,171,722	16.59
三木谷 晴子	1,458,750	11.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	813,889	6.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	482,411	3.69
マสดアアンドパートナーズ株式会社	474,910	3.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	260,902	1.99
本城 慎之介	193,842	1.48
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託Y口)	123,043	0.94
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカ ウント ジエイピーアールディアイエスジーエフイーエイシー	121,977	0.93

株式分布状況 (2008年12月31日現在)



Business Report for the fiscal year 2008

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
公告	電子公告または日本経済新聞
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物の送付先 および連絡先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-176-417

楽天株式会社 TEL.03-6387-1111 <http://www.rakuten.co.jp/info/ir/>

東京都品川区東品川4-12-3 品川シーサイド楽天タワー 〒140-0002